

提携米通信

2019年5月号・黒瀬農舎

「令和」のスタートより1週間ほど早く、我が村自慢の桜が咲きました



我が村自慢の「菜の花と桜ロード」

今年の4月は、凍えるような寒い日が続いたかと思うと、急に初夏の日が現れる。桜の開花がいつになるかサッパリ判らない年でした。でも、例年より早く急に満開。朝通った時は3分咲き、田圃で2時間足らず仕事して、帰りに通れば満開。寒い秋田では、このような桜の咲き方は始めて。 **2019.4.23 正午の撮影**

今年の春先は、4月になっても雪の日もあり、TVなどで「冬タイヤの取り換えは、遅らせてください。」と呼び掛けていました。

4月中旬、やっとその冬タイヤを脱ぐと、今度は、急に気温が上がり、日によっては初夏のよう

な日が見れたと思えば、2、3日後には、最高気温が10℃近くの寒い日が来るなど相変わらず不順な天候です。

でも、村自慢の10Kmを超える「菜の花と桜ロード」の桜は、例年より数日早く4月23日に満開を迎えました。

このように、季節が1ヶ月もバックしたり、50日余りも進んだりという気温の乱高下が激しいものの、雨はほとんどありません。我が村は、春の田起しが、ぬかるんで5月中旬までずれ込む年もある難儀な低湿地ですが、今年は、プラウやレベラーなどの作業が種蒔き時期よりも早く進むという、過去に例のない快調です。

でも、秋の収穫までの間、果たしてどのような天候が来るのかとても心配です。

これから順調に進めば、5月20日前から5月末まで田植えを行い、6月上旬には、今年も山形県・舟形町からマガモ君たちが草取りに駆けつけてくれる予定です。

連休にも数組のご家族が我がロッジを訪問下さいますが、7月上旬までは1000羽のマガモ君たちが田圃で頑張っていますので、お時間のある方はこの時期にどうぞお訪ね下さい。

このように令和元年のお米作りは不順な天候の中でも、快調にスタートしました。この調子で無事豊穰の秋が迎えられることを祈っています。

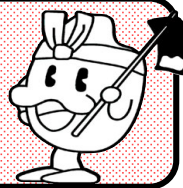
提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・友基

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887



★我が農舎は、電話受付の専任スタッフはおりません。日中は倉庫作業等で、留守電受けが多くなりますが、ご了承ください。

★電話は、日祭日や、夜間もOKです。

★お米のご贈答利用も宜しく願います。

E-mail: akita@kurose.com Web: [提携米 黒瀬農舎](#) 検索

★黒瀬農舎からの返信メールが自動的に迷惑メールフォルダに分類されていることがあるようです。返信のメールが届かない場合は迷惑メールフォルダの確認やメールの設定をご確認下さい。

★宅配便運賃の値上がりに伴い、複数の運送会社を使うことに致しました。そのため、出荷日/サイズ/お届け先によっては、以前(前回)と運送会社が異なることがあります。ご了承下さい。

予想外の好天で、春作業は、はかどっています。

有機の米作りは、種籾の温湯消毒でスタートします。

種籾由来の病原菌で一番問題なものは「バカ苗病」で、これは前年の圃場のバカ苗病菌の胞子が種籾に付着し、この胞子が苗の生育中に発芽し、胞子が出す成長ホルモンの一種のジベレリンによって、苗が徒長し、徒長した稲株はほとんど稔らなくなるという病気です。

一昔前までは、これらの種籾消毒には有機水銀剤が使われていて、その廃液による農村部の環境汚染が問題となっていました。

現在は有機水銀剤に代わり、もう少し害の少ない農薬が一般的に使われていますが、有機栽培にはご法度で、我々は温湯消毒しています。

温湯消毒は、60℃で10分浸漬後に直ぐに冷却。

これは、簡単のようですが、なかなか面倒です。60℃のお湯を準備しても、お湯の容積に対し、種籾の量が多ければ、種籾を浸ければお湯は数度下がります。温度や時間が足らなければ、効果は出ません。

逆に、過ぎれば、病原菌は退治できても、芽が出ない＝発芽障害という致命傷にあいます。従って、一般の温湯消毒は、少しづつ小刻みに時間を掛けての気長の作業を強いられます。

手作りの温湯消毒装置

我が家では、台所、風呂用の灯油バーナーと、1000リットルのお湯のタンクを組み合わせ、ポンプや温度センサーを取り付け、常に60℃にキープするようにお湯を循環させる消毒装置を手作りし、一度に大量の籾の処理を行っています。

ボイラーやポンプなど古い物ばかりですが、もうかれこれ30年も動いており、我が農舎のホームページや通信を見て、全国各地の生産者も活用してくれているようです。

60℃の温湯消毒は、90%程度の殺菌効果があり一般的には、これで十分ですが、翌年の種籾を採取する圃場では、限りなく100%に近い効果が望まれていました。お湯の温度を更に5℃上げて65℃で10分浸漬すれば、ほぼ100%の殺菌効果が出せそうだという研究結果が出たとのこと。

しかし、普通の種籾を65℃に10分浸漬すれば、発芽障害が出て、発芽率はほぼゼロとなります。

そこで、開発されたワザは、普通15%前後である種籾の水分を10%以下に下げることによって発芽ダメージを回避する方法です。

昨年と今年、我が農舎でも、研究機関や農機メーカーの依頼を受けて試験を行い、ほぼ期待通りの結果を得ています。ただ、天日干しや一般の乾燥機では籾の水分率は12%が限界で、10%以下に下げには、熱交換機を組み入れた特別な乾燥装置が必要です。このため一般への普及は当分難しそうです。

トラクターの足が切れそう

昔の大型トラクターは、車と同様のホイール車輪でしたから、当地のような低湿地では時々沈車で大騒動でした。

30年ほど前から、ゴムクローラ型の100馬力クラスの国産大型トラクターが出現し大助かり。でも、このトラクター、随分金食い虫です。1台1500万円也。

また、オイル交換だけでも30万円。もっともエンジンオイルだけでなくギアや油圧オイル全てですが。

今回は、ゴムクローラの交換時期。修理工場に出せば150万円近くという。これは、たまらんと自家交換してクローラ一代のみの60万円で購入しました。

この足、左右で1トン近く、実に重たい。



除草剤不使用は均平が一番
農薬を使わない雑草対策は、出た草を取る前に、草の発生を抑えることが肝要。
そのための先ず第一は、田圃を限りなく平らにすること。
レザー光線利用のレベラーによる均平作業のスナップです。